

学びを生かして、社会に参画しようとする子どもの育成

小学校 檜垣 延久、高市 淳史、品川 崇
研究協力者 鴛原 進、井上 昌善（愛媛大学）
上田真之介（愛媛県教育研究協議会）

1 主題設定の理由

〈自己効力感〉とは、主体的な学びを支えるものである。学んだことを生かしたり、発揮したりしながら学びを進め、自ら学びの空間を広げていくことで、〈自己効力感〉は高まっていく。そして、その高まりが学びへの達成感や充実感につながり、更なる学びへの意欲につながっていく。〈自己効力感〉が高まることで、子どもたちは、社会科で学んだことを生かそうとするであろう。身に付けた資質・能力を発揮したいと願うであろう。

そう考えると、社会科において目指すべき子どもの姿とは、〈自己効力感〉の高まりとともに、よりよい社会を形成するために、身に付けた「資質・能力」を生かし、人や社会に主体的に働き掛けようとする「社会に参画しようとする姿」と言えるのではないか。このことは、新幼稚園教育要領で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「社会生活との関わり」を系統的に育むということにもつながっていく。

以上のことを踏まえ、研究主題を

学びを生かして、社会に参画しようとする子どもの育成

と設定した。

2 〈自己効力感〉が高まる社会科の授業づくり

(1) 社会科における〈自己効力感〉が高まっている姿

社会科における〈自己効力感〉が高まっている姿を、三つの場面ごとに捉えた（図1）。

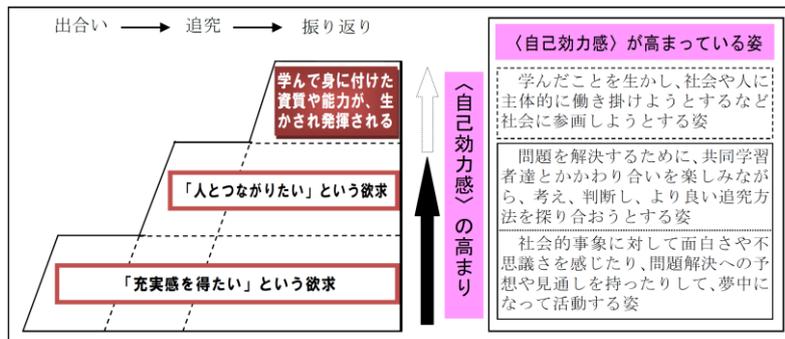


図1 社会科における〈自己効力感〉が高まっている姿

(2) 〈自己効力感〉が高まる指導と評価

ア 〈自己効力感〉が高まる授業を創り出す

(ア) 自分と社会的事象をつなげる教材・単元の開発・改善および指導の工夫

〈自己効力感〉が高まる授業を考える上で、子どもが思いや願いを持ちながら、課題に向き合うことができるような問題解決的な学習を展開していくことが大切なのは言うまでもない。

「出会い」「追究」「振り返り」の各場面で「もの・こと、人」との十分なかかわり合いを保障する。子どもが、社会的事象をより身近に感じたり、学んだことを次の学習や実生活に生かしたり、働き掛けたりすることができる教材・単元の開発や改善を行っていく。

また、練り合い高め合いの話合い活動の場面では、話合いのテーマを精選したり、思考ツールを活用したりするなどして、教師のコーディネートにより話合い活動を充実させていく。

(イ) 新たな問題を見いだす問題解決的な学習過程の創造

上記のことを踏まえ、社会に参画しようとする姿を目指すには、これまでの問題解決的な学習過程における「つかむ（出会い）」→「調べる（追究）」→「分かる（振り返り）」という単元の学習の流れで終わるのではなく、更に思考・判断させる場面、学んだことを生かし発揮できる場면을意図的に設定する「新たな問題を見いだす問題解決的な学習過程」の試みが効果的であると考えた（図2）。

全ての単元においてこれらの試みを実践することは難しいが、例えば、第4学年の飲料水、電気、ガス等のライフラインに関する内容や、第5学年の日本の食料生産や工業生産、情報ネットワーク等の内容、第6学年の公民的分野など、学んだことを実生活で更に生かしたり、これから先、未来の有り様を考えたりすることができるような単元に特に焦点を当てて、教材・単元開発に取り組んでいく。

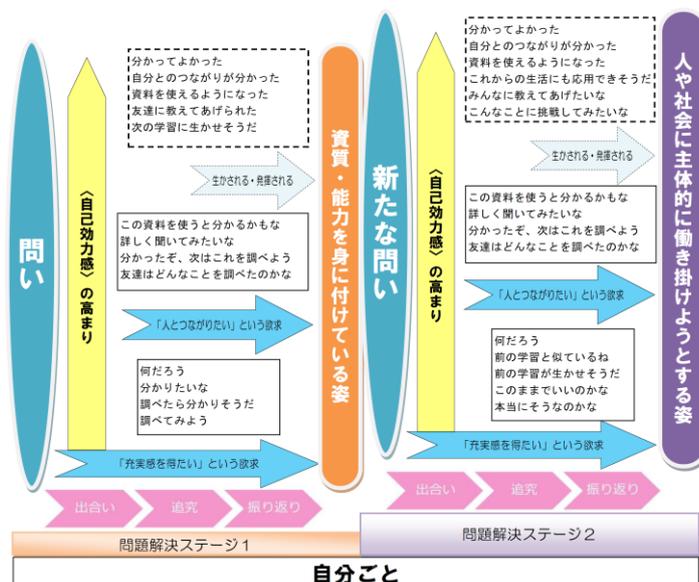


図2 新たな問題を見いだす問題解決的な学習過程

イ 〈自己効力感〉が高まる指導と評価の方針

(7) 評価の視点

〈自己効力感〉が高まっている姿を評価する視点は資質・能力といった「【力】の高まり」と、学習に対する意欲や積極性といった「【心】の高まり」の二つを軸として考えている。

① 「出会い」の場面における評価の視点

【力】 学習問題を設定する力、学習を見通す力

【心】 社会的事象に対する面白さや不思議さの実感、活動への期待感、ワクワク感

② 「追究」の場面における評価の視点

【力】 資料活用力、思考力・判断力・表現力

【心】 「もの・こと、人」とかかわり合うことよさや楽しさの実感

③ 「振り返り」の場面における評価の視点

【力】 社会参画に向けての行動力

【心】 学習への満足感、誰かに教えたい・伝えたい・社会に働き掛けたい・挑戦したい

「【力】の高まり」と「【心】の高まり」という二つの視点を軸に子どもを評価することで、右図のように子どもの状態を捉えることができるのではないかと（図3）。「出会い」「追究」「振り返り」の三つの場面において、Aのように、【力】と【心】が共に高まっている状態を目指し、指導と評価を繰り返し行っていく。A以外の状態のときは、「【力】の高まり」と「【心】の高まり」どちらか、または両方に課題があると捉え、子ども一人一人に応じて指導・支援を行っていく。

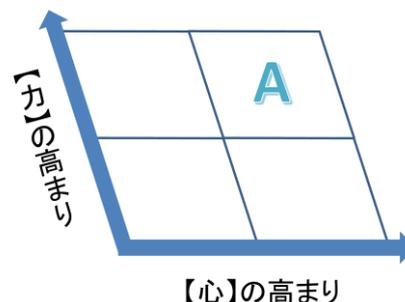


図3 〈自己効力感〉が高まっている姿を評価する視点

(イ) 指導と評価の一体化

子どもの〈自己効力感〉は、単元全体を通して、指導と評価を一体的に捉えながら高めていくものである。そこで、【問題解決ステージ1】のそれぞれの三つの場面において、前述した評価の視点から、〈自己効力感〉が高まっている姿を具体的にイメージし、「社会科授業づくりメソッド」として指導と評価の具体的な方法と指導のポイントを設定した。

ウ 評価の具体的な手立て

前述した「【力】の高まり」と「【心】の高まり」を共に見取っていくために、「自己評価」も含み込んだ「社会科日記」「あゆみ」等を活用する。

短期的評価においては、本時ごとの学習の目当てに対する自己評価を行う。本時の学習を振り返る時間を必ず確保し、個人や学級全体で、次時の活動への見通しを持てるようにする。

中期的評価においては、単元中における主に見取る場面は「出会い」「追究」「振り返り」の三つの場面であり、それぞれにおいて記録していく「社会科日記」の記述の変化（進化・深化）や活動時のつぶやき、ノート記述や学習後の成果物、「わくわく度」「がんばった度」といった自己評価、写真・動画の記録などから、資質・能力及び〈自己効力感〉の高まりを総合的に見取っていく。

長期的評価においては「あゆみ」を活用していく。

また、「社会科日記」として自分の考えをノート等に記述させる際に、ただ漠然と学習の感想を書かせるのではなく、社会科日記のテーマ設定を工夫することで、「資質・能力」及び〈自己効力感〉の高まりを見取りやすくする。加えて、「わくわく度」「がんばった度」といった数値を用いた自己評価を行うことで、自らの学びを振り返るための一つの指針とする。

(3) 教科等横断的な単元の構想

子どもの「【力】の高まり」と「【心】の高まり」が生まれ、人や社会にかかわりたいという思いや願いに応えるためには、学びの空間を広げるように、広い視野を持って単元・授業を構想しなければならない。そのためにも、教科等横断的な単元の設定が重要になる。社会科で学んだことを生ずることのできる場、発揮できる場を保障することで、目指す子どもの姿が表れると考える。

社会科における教科等横断的な単元の構想に当たっては、縦軸（子どもの学習内容の系統性）横軸（教科等の関連性）の二軸を意識して取り組んでいく。中でも、（D資質・能力の関連性）を重視した単元構想を行っていく。

このような考えの基、教科等横断的な単元を構想し、実践した中から二つの単元構想モデルを紹介する（図4）。

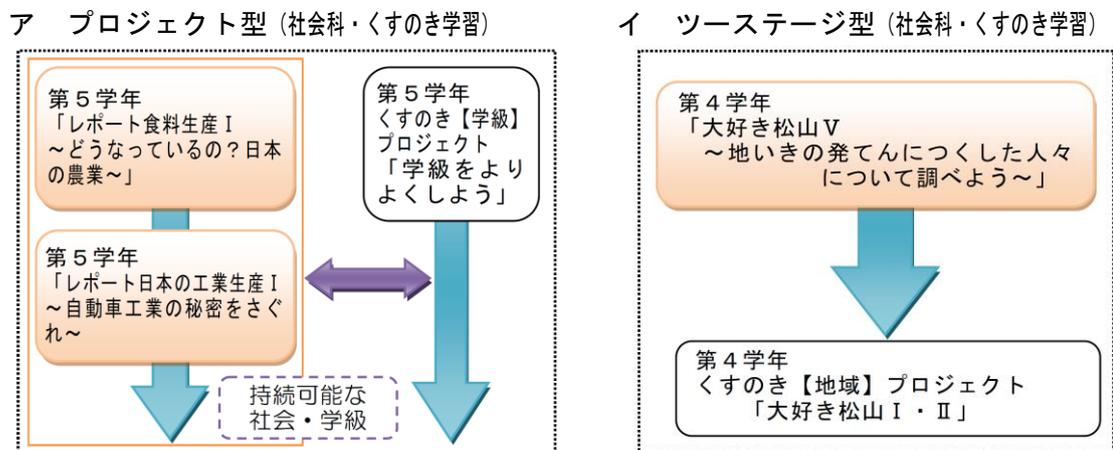


図4 教科等横断的な単元構想モデル図

（檜垣 延久）

愛媛附属小 社会科授業づくり



〇〇をみんなに知らせよう！
これからは役にたてられそうだ！
私たちにできることは…？

社会に一步踏み出そう！
社会に参画しようとする姿

〈自己効力感〉の高まり

学んだことを生かして、人や社会に主体的
に働き掛けようとする、働き掛けたいと願
っている姿！【選択・判断】の機会に！



確かになぜ？調べてみたい！調べなければ！
何とかしなければ！伝えなければ！

可能な単元であれば…新たな問いを生み出す問題解決ステージ2へ！



なるほど！そうだったのか！ 誰かに伝えたい！



学習問題の「答え」を個と学級全体で考える時間をしっかりと確保する！

話合いのコーディネート力

揺さぶりの発問



「振り返り」の場面では、学習問題の答えに迫ることができる
ような、子どもの「思考スイッチ」が入る話合い活動（練り合
い高め合いの時間）を生み出す！

見学・体験活動の充実

まとめ、表現する機会の保障

共同学習者とのかかわりの充実

調べ活動の充実



「追究」の場面では、個・学級の学習問題を解決するために調べる、
体験する、見学する、インタビューする…とことん追究させる！



個・学級の学習問題を設定し、学習計画を立てさせる！
問題解決の見通しを持たせる！

調べてみたい！調べなければ！

おーっ！

すごい！

おかしいな？

なぜ？

五感を使った体験

意識のずれを生む資料

人との出会い



「出会い」の場面では「驚き」と「疑問」を生み出す！

問題解決的な学習過程

問題解決ステージ2

問題解決ステージ1

振り返り

追究

出会い

評価の方法

- 記述
 - ・学習問題への自分なりの答え・まとめ
 - ・社会科日記
- 数値
 - ・社会科がんばった度(%)

- 記述
 - ・調べ学習の成果物
 - ・社会科日記
- 記録
 - ・写真
 - ・動画

- 記述
 - ・学習問題への予想
 - ・社会科日記
- 数値
 - ・社会科わくわく度(%)